

世界の TOP 3 塗料メーカーの 2020 年第 1 四半期（1-3 月）の決算内容
各社の投資家向け説明資料より

AKZO NOBEL

第 1 四半期（1-3 月） -5% アジア中心に影響があった。他の地域は 3 月後半から影響を受けた。建築用塗料は、流通経路遮断により、機能性塗料よりも早く COVID-19 の影響を受けた。

第 2 四半期に対して確固たる見通しを持つことはできないが、前年を大きく下回ることは確実である。

建築用塗料 数量で 9%減少、価格 1%上昇 売上げ前年比 8%減少。ここに為替差損 2%が加わり、トータルで 7 億 5400 万€（約 807 億円）で 10%減であった。地域別では、ヨーロッパ、中東、アフリカが 4 億 9100 万€（約 589 億円）で前年比 1%減、南米 8500 万€（約 91 億円）で前年比 13%減、アジア 1 億 7800 万€（約 190 億円）で 26%減であった。

機能性塗料 数量で 7%減、価格は 3%上昇、買収で 1%増 売上げ前年比は 3%減少。為替差益差損はなく、トータルで 3%減。個別分野では、粉体塗料が 2 億 8100 万€（約 337 億円）で 6%減、船舶防食が 2 億 9000 万€（約 348 億円）で 2%減、自動車および特殊塗料が 3 億 1400 万€（約 377 億円）で 2%減、工業用塗料 4 億 1000 万€（約 492 億円）で 2%減、トータルで 12 億 9500 万€（1554 億円） 3%減であった。

当社は確固たる財政基盤を有しており、3 月 31 日時点で現金および現金および現金同等物が 8 億€（約 960 億円）あり、レバレッジ比（借入金/EBITDA）は 1.2 に過ぎない。さらに 2025 年に償還が始まる信用枠のうち 13 億€（約 1560 億円）の余裕がある。2022 年 7 月に次の社債の償還が始まるが、その額は 7.5 億€（約 900 億円）である。当社は多数の融資元を有している。

この第 1 四半期の調整後の経常利益は、前年比 31%増加し 2 億 1400 万€（約 257 億円）となった。経常利益率は、前年比で 3.3%増加し 12.4%となった。経常利益は前年比 65%増の 1 億 8700 万€（約 224 億円）であった。機構改革やその他により、経費低減額は 4400 万€（約 53 億円）、さらに原材料価格の低減により 5000 万€（約 60 億円）節減された。

https://c5dd57fd9022a24b6fb9-071c5b2fa223735c2037fe72e7d4ea3f.ssl.cf3.rackcdn.com/20200421_q1_report_2020_final.pdf

Sherwin Williams

第1四半期の連結売上は、前年比で2.6%増加し、41.5億ドル（約4440億円）となった。増加の理由は、北米の建築用塗料が好調だったことと、包装資材用塗料とPCM用塗料が世界的に好調だったことによる。COVID-19の影響は、マイナス1.5%程度と推定している。また、為替差損も1.4%程度第1四半期の決算に影響を及ぼした。

希薄後一株あたりの純利益は2019年同時期の2.62ドル（約280円）から3.46ドル（約301円）に増加した。この利益金額には、合併費用の償却62セントと為替差損の5セント（いずれも一株あたり）が含まれている。昨年の利益には、合併費用の償却63セントと合併関連費用8セント、および年金の統合費用27セントが含まれていた。

アメリカ国内市場では、売上が7%増加し、23億1000万ドル（約2472億円）となった。利益は5720万ドル増えて、3億8830万ドル（約415億円）となり、利益率は前年比1.4%増え16.8%となった。

機能性塗料については、売上は1.1%増加し12億2000万ドル（約1305億円）となった。この四半期で減少した塗料は、アジア・太平洋地域におけるいくつかの軟調市場によるものであり、COVID-19や為替差損の影響も認められた。これらのマイナスの幾分かは、包装用塗料やPCM塗料の世界的堅調によりカバーされた。為替により、グループ全体で2.2%売上げが減少した。

機能性塗料全体としての利益は、比較的穏やかな原材料価格とコスト削減が売上げ量の落ち込みを帳消しにして、前年から1500万ドル増えて、1億1370万ドル（約122億円）となった。営業利益は前年から1.3%増え9.3%となった。これら利益には、合併費用の償却を含んでいる。

企業合併に係る経費を除くと、一株あたりの純利益は、2019年同時期の3.60ドル（約385円）から4.08ドル（約437円）に増加している。

EBITDAは8.3%増加し、6億2310万ドル（667億円）となり、売上の15.0%に達した。しかしながら、COVID-19の影響により、2020年の目標を一株あたり純利益で16.46-18.46ドル（約1761円-1975円）（合併関連償却2.54ドル（約272円）を含む）に下方修正した。（当初の目標は19.91-20.71ドル（約2109円-2216円）であり、合併関連償却2.79ドル（約299円）含む）

<https://investors.sherwin-williams.com/press-releases/press-release-details/2020/The-Sherwin-Williams-Company-Reports-2020-First-Quarter-Financial-Results/default.aspx>

PPG

第1四半期の売上は、34億ドル（約3640億円）であり、前年に比べ7%低下したが、為替の影響を除けば5%の低下であった。一株当たり利益は1.02ドルであり、調整後は1.19ドルとなった。これらはCOVID-19影響については、売上げで2.25億ドル、一株利益で0.35ドル、それぞれマイナス方向に押し下げたものと推定している。

第1四半期末の現金および短期投資は、約19億ドル（約2033億円）であり、4月に7億ドルの追加短期融資を受ける。ICRとAlpha Coating Technologiesの買収を完了した。

汎用（機能性）塗料分野 第1四半期の売上げは20億ドルで（約2140億円）であり、5%（1億ドル≒107億円）減少した。為替の影響を除けば3%の減少であるが、売値は2%強上昇した。買収は1%もしくは2000万ドル（約21.4億円）の売上増をもたらしてくれた。主としてDexcmct、Textstarsm、ICRの買収によるものである。これらの買収は、販売数量の減少（6%、1億2500万ドル≒134億円）と為替差損による減少（2%、4000万ドル≒43億円）に相殺された。COVID-19による売り上げ減少は9000万ドル（約96.3億円）と推定される。

航空機用塗料は一桁の下の方の%での売り上げ減少であったが、製造会社が操業を停止したため市場は軟化している。自動車補修では、数量は10%台の下の方程度の減少であったが、販売価格の上昇と買収による販売増で、ほぼカバーできた。

建築塗料では、為替変動と買収分を除いた各地区の状況は以下の通りである。アメリカ、アジア太平洋はそれぞれの地域での差はあるものの、一桁の下の方%の増加。メキシコでは一桁の中ほど以上%の増加、アメリカ・カナダのDIYは一桁中ほど%の増加であった。防食と船舶では、中国での都市封鎖の影響で、一桁の下の方%の減少となった。ヨーロッパ、中東、アフリカでは、販売店を通じての販売は、一桁の下の方%の減少となった。ただし、最初の2か月は、3月における南ヨーロッパの都市封鎖による販売店の閉店による減少を上回るほどの増加があった。

汎用（機能性）塗料分野の第1四半期の純利益は、2億7200万ドル（約291億円）で2500万ドル（約8%）の減少であったが、ここには為替差損の700万ドル（約76億円）を含む。COVID-19による影響は3500万ドル（約37.5億円）であった。

工業塗料分野 第1四半期の売り上げは、14億ドル（約1498億円）で、約10%、1億4500万ドル（約155億円）減少した。買収による増加は、6000万ドル（約64.2億円）であり、主としてWhitford and Hemmelrathによる。為替差損の影響は3500万ドル（約37.5億円）で売り上げの2%に相当する。数量は約11%低下したが、これはほとんどCOVID-19の影

響によるものであり、金額的には1億3500万ドル（約144億円）であった。

さらに細かくみると、自動車（新車）では、世界の自動車製造業の生産縮小をうけて、前年比で20%近く減少した。一般工業用は、数%の減少、包装用では、一桁の下の方%の減少となったが、地域的にみると、中国では減少、北米、南米では増加であった。

工業用塗料分野の第一四半期の純利益は、1億8100万ドル（約194億円）で3700万ドル（約40億円）17%の減少であった。この数字には500万ドル（約5.4億円）の為替差損を含んでいる。COVID-19による影響は5500万ドル（約59億円）であった。

<https://news.ppg.com/press-releases/press-release-details/2020/PPG-Reports-First-Quarter-2020-Financial-Results/default.aspx>